

字燧字篇

新説

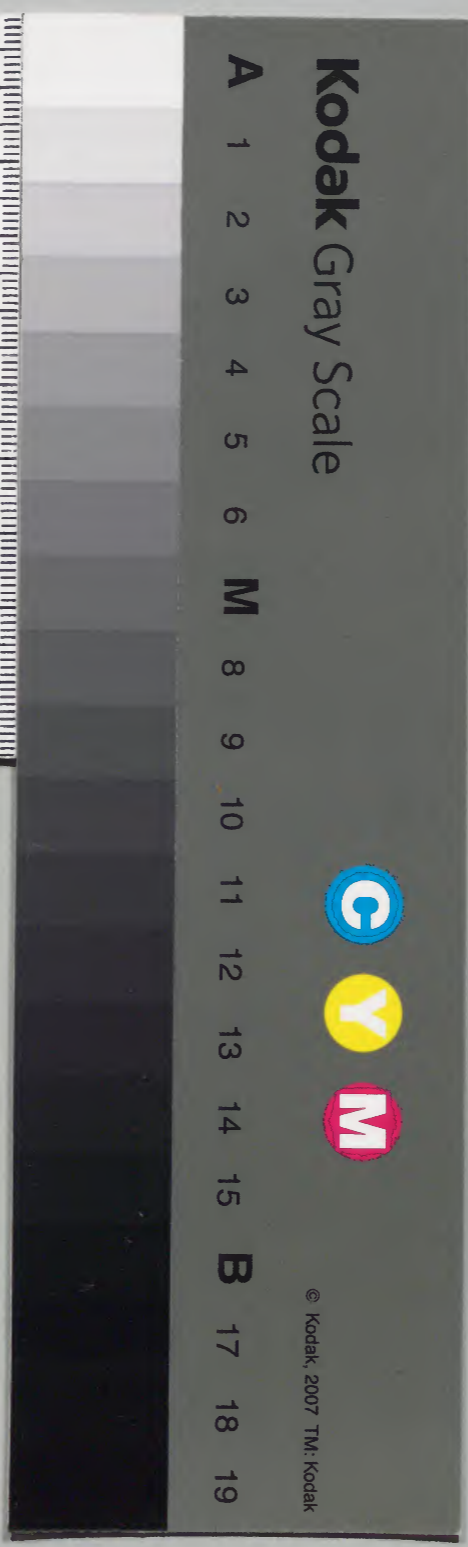
上

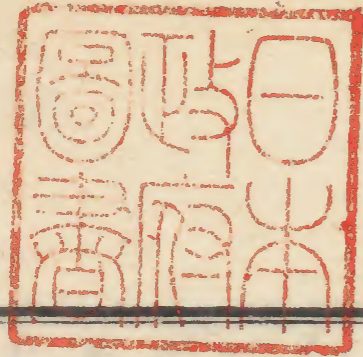
和書門			
一八五	一八八	一八八	一八八
二函	二架	二架	二架
三冊			
類			

內閣文庫			
一八五	一八八	一八八	一八八
三函	三架	三架	三架
一九			
和書			
類			

字燧字

內閣文庫	
番號	和 18588
冊數	3 (2)
函號	207 394





綴字篇附説

目録

人ハ萬物ノ靈タルユエシ

附 言語ノ事

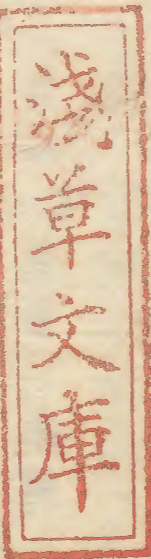
本邦文字ノ起原

附 阿伊宥衣於伊呂波ノ事

語學文法ヲ定ムヘキ説

附 本邦ノ語法ハ支那諸國ニ勝レタル事

字音正シカラザレバ書籍ノ義理ヲ分曉スル



目録

目録

能ハズ声音明カナラザレバ人々思念ヲ通ジ
難シ

附一字ノ異ニシテ自他彼我ノ差別アル事
五十音ヲ基礎トシテ教ヲ立ツベキ説
附伊呂波ハ教ヘテ益ナキ事

目録終

綴字篇附説卷之上

丹後舞鶴 片山 淳吉 編輯

八萬物ノ靈タルユエン

和蘭人文社氏和蘭文典ノ序ニ曰ク此編ノ文ニ

ハ文章ノ初メ人名地名書名ノ如キヲ大書シテ

凡ソ人ハ禽獸ヨリ貴クシテ大ニ之カ上位ニ在

ルユエンノモノハ他ナシ分明ナル聲音ニ由リ

テ輒ク其思念感慨ヲ他人ニ告諭スベキ天與ノ
良能アルカ故ノミ即チ之ヲ言語ト名ツク而シ



テ此言語ヲ陳へ思念ヲ通ズルニ當ツテ、必ス一定ノ法ナクシバアル可カラズ、故ニ我國先、語法學ヲ設ク、英吉利語法學、佛朗西語法學アルト同一揆ニシテ、又從テ文法學ノ起ル所以ナリ。ト真ナル哉、総ジテ地上人民アレバ、必ズ言語アラザルコト無シ。今ヲ去ルコト四百餘年前伊多利ノ閣龍氏初メテ亞米理加洲ヲ發見セシトキ、既ニ數多ノ土人有リテ、部落々々割據セシモノ皆一種ノ言語ヲナシ、以テ能ク互ニ其意念ヲ通達セリ、然レドモ文字ヲ製シ言語ヲ記載スル等ノ事

ハ未ダ知ラザリシナリ、近クハ我北海道ノ土人モ亦然ナリ。是ニ由リテ之ヲ考レバ本邦太古ノ世モ亦既ニ土音ニヨリ一種ノ言語ヲ成シケムコト論ヲ埃ズ、抑我日本ノ(アイウエオ)歐羅巴ノ(A)B(C)印度ノ(カ)キ(ク)ケ又サンスクリトノ(ガ)ギ(グ)ゲ等ノ如キ原字二三十或ハ五六十ヲ以テ言語ノ記標トナス、其數僅少ナリト雖ドモ、彼是綴屬シ互ニ活用變化シテ、事物ノ數ハ幾億萬アルモ皆能ク記シ得ベキナリ、故ニ之ヲ言語ノ國ト謂フ獨リ、支那ノ字ハ大率物形ノ

記標ナルガ故ニ、一物ニツキ必ズ一字ヲ製シ、其
數幾萬アリテ一々暗記シ難ク、又連綴シテ文章
ヲ作ルニ自他時刻ノ分別等詳ラカナラザル事
多シ、之ヲ文字ノ國ト名ツク、言語ノ國ト自ラ殊
別ニシテ混ズベカラザルナリ。

本邦文字ノ起原

附 阿伊宥衣於伊呂波ノ事

我邦太古ヨリ本来ノ言語アリシトハ上文既ニ
論ゼシ如ク、人生レテ口ヲ開ケバ必ズ声ヲ發セ

ザル事ナク之ヲ音ト謂フ、音アリテ後ニ字アリ、
字ハ声音ノ象ニ頭レテ見ルベキモノニシテ、
其音ヲ集ムル時ハ即チ語ヲ成シ、語ヲ集ムレバ
文ヲ成スナリ、或曰ク古昔マタ我國獨用ノ文字
アリテ其形チ畧印度ノ梵字ニ類シ、活用ハ歐洲
ノ法ニ似テ、僅カニ十四五字トイヘドモ、亦之ヲ
綴屬シテ文章ヲ作ルベク、後世神代文字ト名ツ
クルモノ即チ是ニテ、神代卷ハ此文ヲ譯セシモ
ノナリト、然レドモ舊書散逸シテ大率マタ考フ
ベカラズ、明確ナル證據ナケレバ姑ク之ヲ闕テ

論ゼス、抑 神功皇后遠ク新羅ヲ征シ給ヒシ時、始メテ圖籍文書ノ類ヲ得給ヒ、又 應神天皇ノ十五年百濟國ヨリ阿直岐ト云學士來リ、又和邇ヲメシ、時論語千字文ヲ獻シ、皇子此兩學士ニ經典ヲ受ケ學ヒ玉ヒシト、國史ニ見エタリ。是レ即チ漢土ノ學我邦ニ傳リシ權輿ナルベシ、後文運漸ク開ケ 持統天皇ノ時、大小ノ學寮ヲ建テ唐ノ續守言、薩弘恪、等ヲ音博士トナシ、專ラ漢音ヲ學バセラレタリ、マタ天平勝寶年中吉備真備朝命ヲ奉シ唐國ヘ渡リ其國ノ學ヲ受ケ、依テ

我國固有ノ音韻ノ順序ヲ悉曇字母ニ基キテ五十音圖ヲ作り、或人曰五十音圖ハ伊呂波ヨリ後ニ出タルモノト何レカ是ナルヲ知ラ 歸朝シテ後原字ノ偏傍點畫ヲ省畧シ、一種ノ國字ヲ製作シタリトゾ、之ヲ大和假名又片假名ト謂フ、弘仁天長ノ頃ニ至リ弘法大師マタ漢字ノ草体ニヨリいろは四十七字ヲ作りタリ、其順ハ涅槃經四句ノ文「諸行無常」ト云「いろは色葉雖いろは句散」トナシ「是生滅法」ヲわが我世誰有常いろは生滅々已いろはノ有為與山今越いろは寂滅為樂いろはヲ淺為夢不醉ト和ラゲテ佛法悟道ノ義ヲ謠フニ口調ヨク為シタル一

綴字補附説 四 自由在

種ノ歌ナリ、恐クハ當初(アイウエオノイウエト
 ヤイユエヨノイエト)ワヰウエヲノ(ウト以上イ
 ウエ)ノ三字ハ其原字モ假字モ同一ナレバ、同音
 ノ如クニテ無用ノモノト思ハレタル歟、此三字
 ハ省ブカレタレド、いぬを江急ノ六字ハ同音
 ノ如キモ、其字形異ニシテ用法モ古書ニ明ナル
 故、英ニ之ヲ存セラレタリ、然レドモ(アイウエオ
 ノ五字ハ言語ノ親スナハキ母韻ナレバ長ク(ア
 ーイ、ーウ、ーエ、ーオ)ト呼フモ、短ク(アイウエオ
 ト呼モ、始終其音ヲ變ズルコト無クシテ單音ナ

リ、加行以下四十五字ハ悉ク母韻ヨリ生出スル
 モノニシテ(カキクケコオ)(ワヰウエヲオ)ノ如ク
 自然ニ母音ノ韻アリテ複音ナリ、故ニ五韻ハ母
 ノ如ク四十五音ハ子ノ如クナレバ母韻子音ノ
 名起レリ、夫レ此ノ如ク判然トシテ母子ノ區別
 アリ、又射ノ假名ハ(アイウノイ)ニ非ス(ワヰウノ
 ヰ)ニモ非ズシテ(ヤイユノイ)ナルベク、夢ノ(イ)ハ
 (ユ)トモ通ヘバコレモ(ヤイユノイ)ナルベシ、カ
 、レバ(イイヰ)(エエウ)ノ如キモ音韻ノ呼法明
 了ナルベキニ、惜哉早ク西洋ノ如キ語法學備ラ



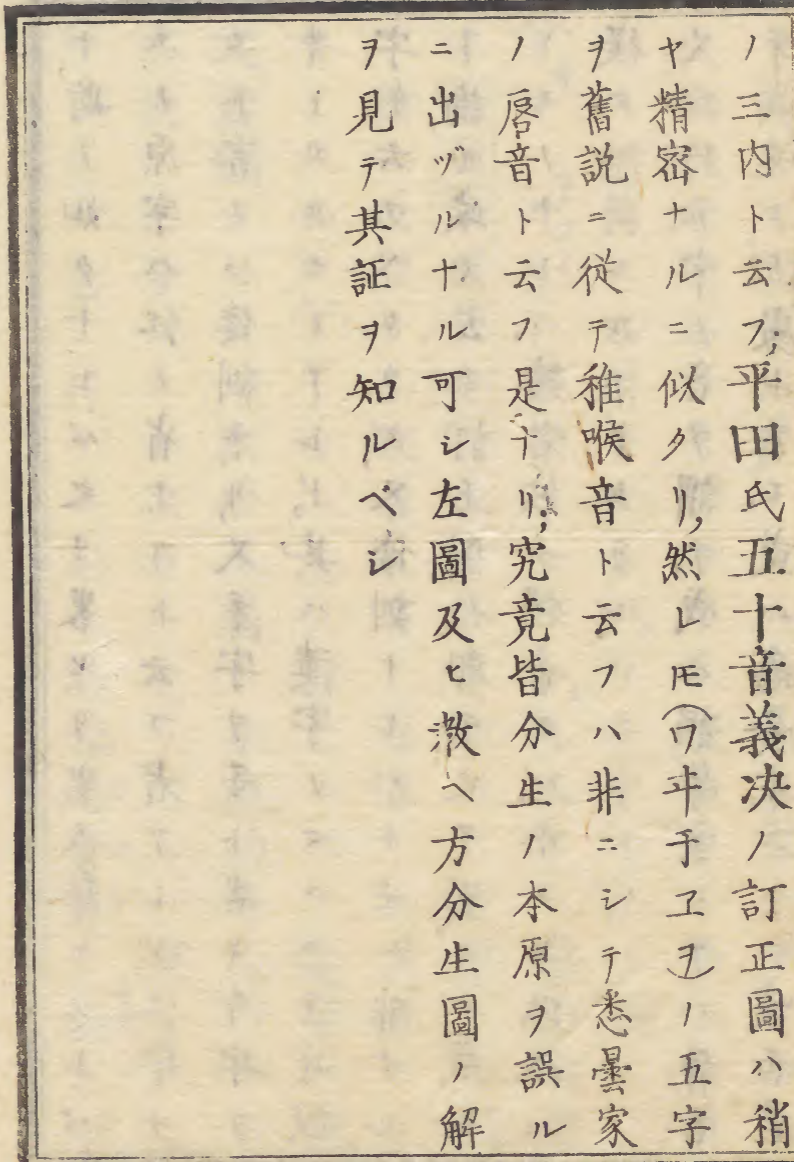
ザリシヨリ獨リ(イウエ)等ノ字音ノミナラズ、他
 字ノ音モ轉化シテ古音ト今音ト異ナルモノ多
 シ、他字ノ音轉化セシ下古人既ニ(オヲ)ノ所屬
 ヲ誤レルヲ、本居氏發明スル所アリテ字音假字
 用格トイフ書ヲ著シ、(オヲ)所屬ノ明證又舉ケ委
 ク論辨シタリシヨリ、近時ハ稍其差別モ世ニ明
 カナルニ至リ、其他又三密抄及ヒ明了房秘記等
 ノ論ニヨリテ天保弘化ノ頃ニ義門法師、白井寛
 蔭等吳音ノ(衣)字ヨリ省畧シテ(又)後(上)ニ紆ヨリ
 (于)又(以)ヨリ(レ)ヲ作り、阿行ノ(王)耶行ノ(イ)及ヒ和

行ノ(ウ)ニ換ヘン_一ヲ論ゼリ、此說一タビ立_テヨ
 リ(イウエ)三音ノ差別差ヤ明詳ナルヲ得テ、近世
 之ヲ用フル者多ク、文部省刊行ノ教科書中ニモ
 既ニ之ヲ採レリ、因リテ磨光韻鏡及ヒ漢吳音圖
 ヲ考フルニ、其証左ノ如シ。
 伊字ハ漢ノ原音エイ次音イ、吳ノ原音アイ次音
 イナリ、矣字モ亦同シ、然レハ(アイウエオ)ノ行ニ
 通ヒテ(エ、イ、ア、イ)ノ假字ナルベク、以字ハ漢ノ原
 音エイ次音イ、吳ノ原音ユワイ次音ヤイ第三音
 イナリ、惟字モ亦同シ、然レバ(ヤレユエヨ)ニ通ヒ

一(エ^レイ^ユヤ^ワイ)ノ假字トナルハク;又韋ハ漢ノ原音
 ウイ次音井,吳ノ原音ウワイ次音ワイ第三,音井
 トアリ,為モ亦同ジケレバ,(ウ^ウ井^子エ^ユ)ニ通ヒテ
 手^キイ^子ワ^ワイ^子ノ假字ナルベシ;又衣字ハ康熙字典
 二唐韻集韻韻會トモニ於希,切トアリ漢吳音圖
 二漢ノ原音アイ次音イ吳ノ原音イエ次音エト
 アレハ共ニ(アイウエオ)ノ行ナルベク延字ハ說
 文廣韻トモニ以然,切玉篇ニ余旃切等ノ切字モ
 亦漢ノ原音ユエ又次音エ又トアレバ是レマク
 (ヤ^レエ^ユエ^ヨ)ノ行ナルベシ其他慧^エ宥^ウ紆^フノ証モ皆

十斯ノ如クナレバ之ヲ畧セリ世人動モスレバ
 エノ原字ハ江ノ省ナリト云フ者アレド,江^カ字ヲ
 エト言フハ倭訓ナリ,又示字ヲ子ト書キ井字ヲ
 井トカクモノアレド,其ハ漢字ノマ、ニテ片假
 字ト云フベカラズ;又倭訓ナレバトモニ非ナル
 一論ヲ埃ズ左ノ訂正圖ハ即千^チ之ヲ明^ミカニ成シ
 、モノナレバ,讀者能ク領會セバ,今ヨリ以往ハ
 復タ誤用スル^ルナカラシム
 又經^キ行^{コウ}五字ノ音ヲ謂^イテ,或ハ韻學家ニテハ脣舌
 牙齒^{キョウ}喉^{コウ}ノ五處ト云ヒ,或ハ悉曇家ニテハ喉舌唇

ノ三内ト云フ、平田氏五十音義決ノ訂正圖ハ稍
 ヤ精密ナルニ似タリ、然レモ(ワ)斗于エ五ノ五字
 ヲ舊説ニ從テ雅喉音ト云フハ非ニシテ悉曇家
 ノ唇音ト云フ是ナリ、究竟皆分生ノ本原ヲ誤ル
 ニ出ヅルナル可シ左圖及ヒ教ヘ方分生圖ノ解
 ヲ見テ其証ヲ知ルベシ



五十音訂正圖

ナ	多	散	加	阿	阿	阿	阿
ギヤウ	ギヤウ	ギヤウ	ギヤウ	ギヤウ	ギヤウ	ギヤウ	ギヤウ
原字	門ノ音	原字	須ノ音	原字	久ノ音	原字	母韻
奈	夕	多	シ	散	カ	ア	ア
仁	千	知	シ	之	キ	イ	伊
奴	ツ	門	ス	須	ク	ウ	宥
彌	テ	天	セ	世	ケ	上	衣
乃	ト	斗	ソ	曾	コ	才	於
舌柔音	濁音ニモナルナリ	舌剛音	濁音ニモナルナリ	舌顎音	濁音ニモナルナリ	顎齒音	成喉音

經行ハ五音相通シ
緯列ハ同韻相通ス

將然言連用言截斷言連体言已然言
阿ノ韻伊ノ韻宥ノ韻衣ノ韻於ノ韻

和	良	也	末	半	奈
行	行	行	行	行	行
紆ノ音	原ノ音	由ノ音	牟ノ音	不ノ音	奴ノ音
ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	
和	良	也	末	半	十
韋	利	以	美	比	二
紆	流	由	牟	不	又
工	礼	延	妹	邊	ネ
乎	呂	與	毛	保	ノ
唇喉音	舌頭音	顎喉音	内脣音	外脣音	

夫レ五十音ハ右ノ如ク、経ニ五音ヲ列ネテ唇齒舌顎喉ノ五音相通シ、緯ニ十字ヲ列ネテ阿伊宥衣於ノ同韻相通ズ、又將然言、連用言、截断言、連体言、已然言ト分カレ加フルニ形容辭、副辭、動辭、及ヒ過去、現在、未來、ノ時刻等自在ナル活用一トシテ備ラザルナク、而カモ嚴正ニシテ殊ニ大便利ナル一支那及ヒ歐羅巴ニモ卓越ノモノナレバ、童蒙ヲ教育セムニハ須ク五十音ヲ以テ基礎トナシ、先ツ音義語法ヲ學バシムベシ、伊呂波四十七字ノ如キハ、音韻完備セズ、變化ノ作用ナク、又

上文ニ論ゼシ如ク作者ノ深意アルモ容易ク初
學ノ曉リ難キ不便ナルモノナレバ、今ヨリ後之
ヲ廢スルモ亦妨ケナカラム乎。

語學文法ヲ定ムベキ説

附日本ノ語法ハ支那諸國ニ勝レタル事

肥前大庭氏譯和蘭文語ノ凡例ニ曰ク、我邦中
古和歌ノ賢哲紀貫之ノ時ニ至ルマデハ、和哥ノ
道日々ニ新ニ月々ニ盛ニシテ、頗ル和哥ノ定法
ヲ知レリ、爾後支那ノ僻傳添、秘傳禁戒ノ法行
ハル、ニ及ンテ、和哥ノ本道傳ル、少ク降テ俊

成卿定家卿ノ時ニ至テハ、其法ヲ誤ルモノ既ニ
多ク愈降り愈誤リテ、終ニソノ真面目ヲ失スル
ニ至レリ。近世難波ノ契沖加茂真淵富士谷成章
等出テ、深ク之ヲ憂ヘ千載不傳ノ緒ニ接シテ。
和歌ノ定法乱ルベカラサルヲ論ジ。後又本居宣
長之ニ次キ努力勉強シテ、和哥道及ヒ音義語法ヲ
説明セシヨリ、我言語ノ法更ニ新ニシテ今人復
ク古人ト衡行スル、ヲ得ルニ至レリ。今其彼此
ノ論説ニ由テ之ヲ觀レバ我活辭ノ作用ニハ方
今既往将来等ノ時判ノ變、他動自動ノ別アリテ、



形容辭モ亦夕其形容スル實辭ニ從テ轉變スル
1 猶和蘭ノ言辭ト大同小異ナルカ如シ。然シテ
仔細ニ之ヲ顧レハ。我活辭ノ時制形容辭ノ變等
ハ却テ彼ヨリ勝ル者アリ。故ニ今ヨリ後彼レ
ト我レトヲ比較スルテ各國語法ノ天然ニ出ル
ヲ知り日ニ月ニ益勉強シテ言語ノ法ヲ新ニシ。
其本源ヲ究ムルハ則チ我皇邦ノ文章ハ必ス
支那諸國ニ勝ランこと今ヤ文教休明ニシテ陋
習開化シ、遠ク西洋ノ書ヲ讀ムモノ驟々トシテ
日ニ益々衆シ、然シテ我邦ノ語法學中綴字、單語

綴字附説

自由存書

會話及ヒ文典ノ設ケナキハ、獨立ノ一國ニシテ
固有ノ道ナキガ如ク豈ニマタ慨歎スベキニ非
ズヤ、然リト雖モ會話文典諸篇ノ如キ關係スル
所極メテ大ニシテ和漢洋兼備ノ大學士ニ非レ
バ、敢テ叨ニ編輯スベカラズ、本篇コハニ本篇トマタ教ヘ方ニ非
ラズ以下皆同ニ非、如キハ僅ニ小童ニ授クル端緒ニシテ、淺學寡聞ハ固ヨリ言ヲ待タスト
雖モ亦辭セガル所アリ。然シテ和漢洋兼備ノ學
者今俄ニ多ク得ベカラザレバ文法暫ク旧章ニ
循ヒ其人ノ出ルヲ待ンノミ。

綴字附説

〇七

自由存書

字音正シカラザレバ書籍ノ義理ヲ分曉ス
ル能ハズ声音明カナラザレバ人々思念ヲ
通シ難シ

附一字異ニシテ自他彼我ノ差別ヲ
ル事

太田氏漢吳音圖說ニ曰ク語曰工欲善其事必
先利其器書籍ヲ讀ムモノハ譬ヘバ工ノ如シ書
籍ノ義理ヲ曉ラントスルハ工ノ其事ヲ善セン
ト欲スルヲ如シ扱テ書籍ヲ讀ムニハ先字音ヲ
知ルベキ也字音ヲ善知ントスルハ工ノ必先

ツ其器ヲ利スルカ如シ故ニ字音ヲ善知ント
思ハ、先音韻ノ原アルヲ知ルベシ音韻ノ原ヲ
知ルハ韻鏡ニ如クモノナシサレモ音韻ノ學ハ
蒙士曉リ難キヲ苦ミテ困^ムニ學フモノ鮮シ然レ
モ是レ難キニアラズ我國ハ漢吳兩音ヲ傳ヘテ
書籍ヲ讀ムナレバ此二音^ノ國字母譯^フダニ韻
圖ニ檢スルヲ通曉スレバ便^チ了^スナリ又曰
ク今此音圖ノ用ハ習常ノ音ヲ悉ク皆漢吳音
ノ真ニ復シマタ此圖ノ原正次正ニ復セントニ
ハアラス字音ノ原委ヲ知ルトキハ解書省力ノ

法ニテ許多ノ益アリ又倭文章ヲ属スルニ字音
 ノ國字^カヲ正スハ圖ニアラザレバ能ハザレバ十
 リトト真ニ然ナリ、故ニ初學ヲ教ルニハ、先ツ綴
 字ヨリ單語、會話ト順序ヲ逐ヒ精ク假字音ヲ正
 シ、他日文法ノ定ルアラバ、之ニヨリテ漸ニ曉リ、
 聊カ注意ヲ加フルキハ、苦學セズシテ自然ニ覺
 ヘ一モ誤ルヲナカラシム。

近来西洋ノ教士来リテ我カ初學ノ者ヲ教フル
 ニ先ツ彼ノ二十六字ノ原音ヨリ、之カ變化及ヒ
 單語、會話、讀本、文典ノ諸篇各順序ヲ逐テ、之ヲ授

ルニ深切精密ニシテ、一字一言モ誤ルベカラズ、
 故ニ僅カニ三十四歳ノ小童トイヘドモ、未ダ一
 年ヲ歴ズシテ彼國ノ語ヲ以テ對話シ、我邦ノ文
 字ヲ綴ル事能ハザルモ、却テ彼國ノ文章ヲ属シ
 得テ大ナル誤用ナキ所以ハ、其法ノ宜キヲ得ル
 ニアリ、夫レ我國ト彼國トハ、齊シキ言語ノ國ニ
 シテ、我ハ彼ニ及ザルヲ遠ク甚シキユエシハ何
 ヲヤ、從來字音語法ノ學ヲ缺キ、且以先輩所著ノ
 語法書アリト虽氏徃々一家ノ論ヲ張り或ハ初
 學ノ曉ルベカラザル高尚ノ説ヲ立テ、甚シキ

綴字篇附説

自由字

至リテハ(假名遣ヒ)ハ秘法アリテニヲハ口訣
 ナリト云テ輒ク人ニ傳ヘズ、世人モ亦之ニ注目
 スルヲ淺カリシニヨレルナラン、是故ニ因襲ノ
 久シキ終ニ語法ヲ知ラズ、薩人奥客互ニ鳩舌ノ
 譏ヲナシ、異國ノ人ヲ見ルカ如ク南村北郡土音
 同ジカラズ、胡越ノ隔ヲオス、此ノ如クニシテ改
 ルヲナクバ、若シ他日闔國撰舉ノ紳董等議院ニ
 出テ政事ヲ議スルヲアラバ、何ヲ以テ能ク其意
 念ヲ通シ公平ノ論ヲ盡スベケンヤ、嘗テ聞ク某
 許ノ小厮熱トリ藥ヲ買ヒニ行シテ、鬻取藥ト誤

聞シテ遂ニ其主人ノ命ヲ落サシメタリト、此レ
 究竟字音語法ノ教ヘ明カナラザルニ依ル、豈ニ
 大イニ戒シムベキコトニアラズヤ。又或ル宮女、
 成範卿ノ昔ヲ思ヒ出デ、

雪井上ありし昔よかぬと云ふ所の内やウキ
 ト讀ミテ出シタリケルヲ、成範卿ノ返歌ニ
 雪井上ありし昔よかぬと云ふ所の内やウキ
 ト唯一文字ニテ返哥トナサレタリケルトゾ、又
 丹後ノ牛田松洲ト云フ人ノ發句ニ
 スザー〜ぬくはあきつゝあう年

綴字篇附説

〇十四

自由字

ト讀ミテ出ルタレバ、江戸ノ俳人茶翁ノ返シニ
 其ノ字ハぬくくハ、
 トセリ、又清音ト濁音トニテ自他相反スルコト多
 シ昔シ三形原合戦ノ時、十二月三十日武田家ヨ
 リ
 松うきでハ、たぐひあき行ハ、
 ト讀ミテ送りケレバ徳川家ノ返シニ
 松うれでハ、たぐひあき行ハ、
 トセラレシト云フ、夫レ斯ノ如ク、
 人(の)人(の)うき(て)うき(て)等唯一字ノ違ハ、
 自

他判然彼我ノ差別アレハ、言語ノ道^{ミチ}忽略ニスベ
 カラザル、彰々トシテマク疑ヒナカルベシ、故
 ニ秘傳口訣ノ陋見ヲ洗除シ、漸々會話、文典ヲ輯
 シ普ク人民ニ教授シ、全國同一ノ言語文章ヲ成
 シ、政事文學兼不備リ、始メテ文明開化ノ真路ヲ
 得ルニ至ラバ、實ニ盛世ノ洪舉ニシテ億兆ノ大
 幸何モノカ之ニ過ンヤ、文柄ヲ掌ル者ノ宜シク
 注意スヘキ所ナラン。
 五十音ヲ基礎トシテ教ヲ立ツベキ説
 附伊呂波ハ教ヘテ益ナキ事



嘗テ大學南校ノ教士曰、勿日本ノ五十音ノ如キ
 ハ、言語ノ變化活用自在ナルモノナリ、而シテ之
 ヲ基礎トナシ語法ヲ教ル、未ダ有ラザリシハ
 何ゾヤ、惜ムベキノ甚シキモノナラズヤト、余固
 ヨリ其意アル、多年尚且之ヲ聞テ竊ニ感ズル
 所アリ、遂ニ自ラ淺陋ヲ揣ラズ、米國語法學ノ大
 家ウヱブストル氏所著一千八百六十六年ノ刊行
 (エ)レメンタリ、スペルリン、ブック譯シテ綴
 字篇ト云ヲ原
 トシ加フルニ、サージヤント氏所著一千八百七
 十年刊行、ブライマリー、リードル譯シテ初学
 讀本ト云等

ノ書ニ倣ヒ五十音ヲ根據トナシ、僅カニ公務ノ
 餘暇ヲ偷ニ匆々筆ヲ下シテ稍ク此稿ヲ屬セリ、
 本ヨリ西士ノ言ニ心酔シ漫リニ蛇足ヲ畫クニ
 非ス、本居氏所著字音假字用格中喉音三行分生
 ノ圖アリ、實ニ千古未曾有ノ發明ト云ベシ、然レ
 氏ア ア ハ ア ト ナ リ ア イ ハ イ ト ナ ル ナ ド、謂ヒ
 シハ音ニ單複ノ別アルヲ知ラズ、母子ノ音混淆
 シタレバ今之ヲ改メ、又太田氏ノ漢吳音圖及ヒ
 平田氏ノ五十音義訣等、其他諸書ニヨリ、加フル
 ニ白井氏所著音韻假字用例ノ疑案ニヨリ、之ヲ

西洋ノ語法ニ斟酌シテ聊カ別ニ發明スル所アリ、依テ此編ヲ作りテ小學ノ課本トナシ初學ノ童蒙ニ授ント欲ス。然シテ本篇ヲ三網ニ分ツ、其第一網ハ第一課ヨリ第十四課ニ至ルマデ國音ノ原由ヲ明ニシ、總テ國字音ノ教トシ、第二網ハ十五課ヨリ十九課ニ至ルマテ一綴ノ語ヨリ六七綴ノ語ニ至リ、及ヒ音便ニヨリテ假字音ノ轉訛スルモノヲ集メ、總テ國語綴字音ノ教トス、間々マタ畫圖ヲ加ルモノハ、專ラ童蒙ノ習讀シ且暗記シ易キニ備フ。第三網ハ二十課ヨリ廿七

綴字音ノ

自由

課ニ至ルマデ通常世人ノ慣用ニテ常呼スル所漢吳音ノ既ニ我國語ノ如クナリ来リシモノヲ集メ、平上去入ノ四声各ノ順序ヲ分チ、總テ漢吳音ノ教トシ、復ク廿八課ハ我國ノ促音^{ソルコユ}第二十九課ハ連声ニヨリテ清音ノ半濁トナル事并ニ近世ノ外國譯語ニ促音延音假字例アルヲ等ヲ集メ、第三十課ニ數目字ヲ舉ケテ以テ此編ヲ終ル。嘗テ舊友柳河春蔭早ク語法ノ學ニ見アリテウヒキ多ヒヲ著シ、近クハ古川正雄君智慧ノ環ヲ著シ、モ略^ホ予ガ主意ト同シ、但^レ予獨リ伊

綴字音ノ

十七

自由

守備所説

白

呂波ヲ教ヘテ益ナシト云一ハ上文既ニ畧論セ
シカ如ク此レニ子ト異ナル所ナリ而シテ遺漏
杜撰ハ淳カ不肖ノ罪免レザルヲ知ルト雖モ唯
師友ニ乏シキ郷黨ニ於テ若シ本篇ヲ以テ童蒙
ニ授ケ語學ノ措梯トナシ教化ノ万一ヲ補フコ
トアラバ、マタ必ズ高キニ登ルノ一助ナクンバ
アラズ、故ニ他日又餘暇ヲ得バ、單語、會話、等ノ諸
篇ヲ輯シ、大方ノ君子ニ質サント欲ス、繆誤多カ
ラムハ伏テ諸先生ノ指教ヲ仰クノミ

明治六年癸酉一月 片山淳吉 識

